

【論 文】

大規模災害と地域のスポーツクラブ

—— 東日本大震災を通してみる総合型地域スポーツクラブの活動 ——

天 野 和 彦

Abstract

In Japan, a policy of fostering community sports clubs has been implemented since 1996 under the name of Comprehensive Sport Clubs. Its purpose is not only the health promotion of local residents, but also the clubs' contribution toward community development. In this study, we aimed to evaluate how these clubs have contributed to the communities in the aftermath of the Great East Japan Earthquake which was an unprecedented large-scale disaster. The results indicate that each club has contributed to its respective community through both disaster-relief and support activities, but a significant differences has not been observed between the accomplishments made by club members and those of local residents.

はじめに

健康で文化的な生活への希求が久しい我が国において、スポーツ活動の実践はゆるやかではあるが増加していると言われている（文部科学省，2013a）。一方で、運動習慣の割合に変化がないとする報告（厚生労働省 2012）や、それらは二極化し、特に低いレベルのつまり運動を比較的簡易に行う人口は減少しているという指摘もあり（笹川 2011）、国が掲げるスポーツ実施人口の増大にはまだ多くの時間と工夫が必要である。

定期的な運動実施には、実施者を取り巻く環境、とりわけ運動を行う集団の存在が重要であることは言うまでもない。これまでも公共や民間のスポーツ施設を活用し、地域住民がスポーツ活動の実践を行っており、国や地方公共団体はその環境を支援してきた。

近年では平成 7 年から国の政策として総合型地域クラブ育成事業が行われ、多くの総合型地域スポーツクラブ（以下 総合型クラブと略する）が育成された。総合型クラブは前述のように減少が懸念され、スポーツ人口の拡大にとって不可欠な運動が苦手とされる人々を気軽にスポーツを楽しめるよう支援するとともに、加えて地域におけるスポーツのコミュニティの核となることが改めて明文化されており（文部科学省，2013b）、地域におけるスポーツ活動の促進に向けて今もなお重要な研究対象と考える。

研究の目的

総合型クラブは、平成 25 年度で全国に 3237 のクラブが創設され（文部科学省，2013c）、創設済みの地方公共団体の数も 1742 団体とほぼ全国の市区町村数である 1718 団体（総務省，2014）と同規模まで推し進められている¹。そして量的には、平成 13 年度から 10 年間を目標に掲げられたスポーツ振興基本計画における数値目標を概ね達成している。しかしその実態に関しては毎年行われている調査（文部科学省，2013d）からも会員数と指導者の確保及び財源の確保という課題が恒常的に示されており、育成及び活動状況はこれまでも課題を抱えたまま推移していると言える。一方で前述のように地域において総合型クラブが期待されている役割は少なくなく、地域における子供のスポーツの受け皿、運動部活動との連携やスポーツ人口の拡充だけでなく、「新しい公共」²を担うことも含め地域社会への貢献が期待されている（内閣府，2012）。

平成 24 年 3 月 11 日、宮城県を含む東北を中心に非常に広大な範囲に甚大な被害をもたらした東日本大震災が発生した。詳述は省くが、災害発生から 3 年を経過した現在においても筆者が生活する宮城県では未だに復旧を果たしたと言える状況を迎えていない。震災発生直後から当該地域においては文化社会活動も例外なく課題を抱え、今もお懸命に復旧への道を模索しているのが現状である。災害は文化変容を引き起こす重要な原因として捉えることができ（Oliver-Smith et al, 1999）、地域における脆弱性とその克服を縦断的に検証することが重要である。被災地域においてスポーツ活動の実践が地域に貢献している事例も散見され、尾崎（2004）が指摘した阪神淡路大震災後に総合型クラブの国内における先駆的なモデルとされる兵庫県の垂水団地スポーツ協会の活動で垣間見た災害復興の過程とスポーツ活動の役割が本事例においても検証できると考えた。

そこで本研究は、大規模災害後の地域スポーツクラブの復旧と地域への支援に焦点をあて、二つの仮説を立て、明らかにすることを目的とした。

1. 総合型クラブは大規模災害時に地域の支援活動で役立った。
2. 総合型クラブの会員は、一般地域住民よりも地域の支援活動に積極的であった。

¹ 団体数に相違が見られるのは、総務省の調査実数が合併を換算した団体数のためである。

² 「新しい公共」とは、人々の支え合いと活気のある社会の実現に向けて当事者の自発的な協働の場を指し、内閣府によって平成 22 年に提言された概念であり、公共政策や経済学などで用いられる New Public Management（いわゆる NPM）とは本質的に異なる。

研究の方法

本研究は災害に関する事例研究として複合的な手法を用いた。第一の仮説については、定性的かつ縦断的な手法を用い、宮城県下にある23の総合型クラブに従事するクラブマネージャーを対象に災害前後の活動について平成25年4月から6月にかけて半構造化インタビューを行った³。時系列のモデルとして河田（2003）が示す危機管理における時系列の概念を援用し、5つの時間軸に分け総合型クラブの活動について約1時間の調査を行った。対話の内容は調査対象者の承諾を得た後に逐語録として生成され、複数回にわたる内容の確認を通じてその妥当性を高めた。その後、スポーツ行政に従事する専門家を交え用語の解釈と抽出を行い分析した。

次に第二の仮説については、定量的な方法を活用し総合型クラブのクラブメンバーと地域住民の地域における災害前後の活動比較を行った。対象となる総合型クラブについては被害状況を鑑み宮城県より3クラブを筆者が有意に抽出した。震災後2年が経ちクラブによっては通常の活動に戻っていた県下の3つの総合型クラブに協力を仰ぎ行った。クラブはAクラブが平成20年、Bクラブが平成18年、Cクラブが平成17年に設立され、会員数はAクラブとCクラブが約300名規模、Bクラブがそれに較べて小規模で約100名である。抽出されたクラブのメンバーを対象とし、平成25年8月から9月にかけて託送調査法による質問紙調査を実施し、200枚配布し120枚回収した（回収率59.5%）。また、文部科学省が示す総合型の範囲を中学校区程度と考慮し、クラブハウスから半径約2km圏内に在住する3町村の住民に対して、直接手渡しによる配票調査票による質問紙調査を併せて実施し129枚の回答を回収した。集計されたデータを用いて統計解析ソフトIBMSPSSver 22により総合型クラブの効果と災害前後の比較の為t検定及び分散分析を行った。

尺度及び先行研究について

河田（2003）は、災害時の危機管理は災害前のリスクマネジメントと災害後のクライシスマネジメントで構成され、発生後を継時的に5つのステージに分類した。そして、発生後1日以内の即時対応を示すステージゼロ、2日目から1週間で緊急対応を示すステージ1、1ヶ月の応急対応を示すステージ2、6ヶ月以内の復旧対応を示すステージ3、そして6ヶ月以降の復興対応を示すステージ4という5つの時間軸をもとに地方公共団体の災害への展開を

³ 調査時にA県下に創設された総合型は42クラブあったが、そのうち東日本大震災後に設立された10クラブを除く32クラブを対象とし、調査に応じた23クラブ（有効回答率71.8%）を対象とした。

考察している。本研究では、この時間軸の概念を総合型クラブの活動にあてはめ、復興と支援の活動時期についての分析を行っている。

次に、東日本大震災における災害支援に関する研究は、平野ら（2014）のように被災者支援を考察する福祉論の分野や大江（2012）のように惨事ストレスを検証する精神保健の分野といったものから、緊急時の災害物資輸送から生じた課題についてロジスティクスシステムをもとに考察した田中（2012）の研究のように多岐にわたっている。一方でスポーツに関連する研究は少なく、被災地における災害前後のレクリエーション活動への参加意識などの比較を行った内野ら（2012）や、鈴木ら（2013）による被災地の子供の総運動時間が少ないという貴重な指摘は見受けられる。また総合型クラブの支援活動については、黒須（2012）の支援活動の網羅的な事例研究はあるが、住民との比較などを扱った研究は見られない。

一方で、前述のように今後も我が国において地域スポーツ振興に重要な役割が期待されている総合型クラブであるが、その研究はこれまでも多岐にわたっている。事業開始の頃は八代（2001）のように現在も継続する設立主体への課題を指摘するものも見受けられるものの、海老原（2000）や古市ら（2001）のように育成や設立を対象とした論文が多かった。その後は堤ら（2002）の階層分析法である Analytic Hierarchy Process を用いて活性化を測定したもののや、清水（2005）のように会員の意識や生活に及ぼす影響に着眼しクラブライフの有効性を測定した研究のように、総合型クラブの効果を検証するものが見受けられるようになる。

そのなかには、地域コミュニティへの影響を検証するためソーシャル・キャピタル（以下 SC と略する）を扱った研究が散見される。SC については Hanifan（1916）が提唱し Putnam（1995, 2000）に広められた社会関係資本に関わる概念であり、人々の協調行動を活発にすることで社会の効率性を高めることができる「信頼」「規範」と「ネットワーク」で構成されると定義づけられている。しかし、その概念については多様な意見が存在することが明らかになっている（Kawachi et al, 2008）。

スポーツ分野の研究では、前述のпатナムによる枠組みをスポーツ論、特にスポーツクラブへの援用を述べた鬼丸（2007）や高津（2011）の研究があり、定量的な研究としては中西ら（2009）の研究を挙げることができる。中西らはпатナムに依拠した信頼関係性と互酬性規範、ネットワークという SC の要素に、総合型クラブが持つ組織特性を鑑み自立性と連帯性を加え 5 つとし、内閣府でも用いられている「結合型」を強い人間関係で結ばれたタイプ、「橋渡し型」をゆるやかなつながりを持つ組織のタイプに分け、それら 5 要素 2 類型を用いて 2 つの総合型クラブを事例分析している。結果として、結合型 SC についてはクラブ運営に参加している会員の方が信頼性と連帯性が高いことが明らかになっており、また結合型と橋渡し型の双方が総合型クラブに相関があると述べている。この興味ある結果について

て、SCの類型は排他的ではなく内在するものとされているが、柳沢（2002）が再三指摘するような総合型クラブにおける組織内部の二面性が結果にも表出しているのではないかと筆者は推察する。

本研究では、総合型クラブのメンバーと地域住民という個人を対象にSCの測定し対比することを目的とした。そのため、中西らの総合型クラブ特有の項目についての分析は本稿では行わず、Putnamなどに依拠した内閣府（2002）の尺度をもとに、ネットワーク3項目、信頼2項目、規範5項目からなるSC尺度を仮説的に構成し、それぞれ「まったくそう思わない」から「とてもそう思う」までの6段階リッカートスケールを用いて測定した。

結果

1. 総合型クラブの災害後の活動再開・復興支援

多くのクラブが被災後1週間までは活動を中止しており、1ヶ月後にはほぼ半数のクラブが活動の一部を再開していた。半年後に全ての事業を再開できているクラブは3つありいずれも内陸部のクラブであった。一年後には約3分の2のクラブが活動を全て再開しているが、一方で沿岸部でも内陸部でも一部しか再開が出来ていないクラブが存在した（図1参照）。

筆者は、これまでも東日本大震災のスポーツ集団や施設に関する被害について、沿岸部と内陸部で異なっていることに着眼してきた（天野2012, Amano2013）。本研究においても、会員数はやはり沿岸部では顕著に減っており、逆に内陸部では増えたクラブがいくつか見られ、被災地間でのスポーツ環境に格差が見られる。一方、クラブが実施しているスポーツ事業に関しては沿岸部と内陸部ではあまり差が見られなかった。

次に、クラブマネージャーに災害を通して総合型クラブが役だったことを尋ねたところ、クラブの規模が大きい場合は公共スポーツ施設の指定管理者に指定されている場合があり、より公的な災害支援と復興に好むと好まざると携わることで、行政や住民との関係構築や情報共有が図れたことを指摘が見受けられた。また、総合型クラブがスポーツを通じた支援活動だけでなく、炊き出しやボランティアに参加するなかで、住民にクラブを改めて認知してもらったことが、その後の会員増に繋がったという意見も聞かれた。さらに、積極的に住民支援をするなかで健康事業や子供の事業に幅を広げられ、その後の活動が盛んになったと考えているクラブも少なくなかった（図2参照）。総合型クラブの活動、あるいはクラブメンバーの地域への積極的な支援活動は、総じて住民に好意的に認知され、結果的にクラブへの認知をあげる結果となっていた。

	ステージ0	ステージ1	ステージ2	ステージ3	ステージ4	現在(H25)	
						事業	会員数
沿岸部							
クラブ①	活動中止 安否確認 避難所設置	活動中止 支援活動 施設点検	避難所運営	避難所閉鎖 一部再開	一部再開 支援活動	戻る	減る
クラブ②	未活動	活動中止	一部再開	一部再開	全て再開	増える	増える
クラブ③	活動中止 安否確認	安否確認	一部再開	一部再開	一部再開	戻る	戻る
クラブ④	安否確認 避難所設置	活動中止	活動中止	一部再開	全て再開	戻る	減る
クラブ⑤	安否確認	活動中止	活動中止	一部再開	全て再開	戻る	戻る
クラブ⑥	活動中止	活動中止 安否確認	一部再開	一部再開 支援活動	全て再開 支援活動	減る	減る
クラブ⑦	安否確認 遺体安置所 設置	活動中止 支援活動	一部再開 支援活動	一部再開	一部再開	減る	減る
内陸部							
クラブ⑧	未活動	活動中止	活動中止	一部再開	全て再開	戻る	戻る
クラブ⑨	活動中止	活動中止	一部再開 支援活動	一部再開 支援活動	全て再開	減る	戻る
クラブ⑩	活動中止	活動中止	一部再開	一部再開	一部再開	戻る	戻る
クラブ⑪	活動中止	活動中止	一部再開	一部再開	全て再開	戻る	増える
クラブ⑫	活動中止 支援活動	活動中止 支援活動	活動中止 支援活動	一部再開	全て再開	増える	増える
クラブ⑬	活動中止 支援活動	避難所運営	一部再開	全て再開	全て再開	増える	増える
クラブ⑭	活動中止	活動中止	活動中止	一部再開	全て再開	戻る	戻る
クラブ⑮	未活動	活動中止	活動中止	一部再開	全て再開	戻る	戻る
クラブ⑯	未活動	活動中止	活動中止	活動中止	一部再開	減る	戻る
クラブ⑰	安否確認 支援活動	活動中止	一部再開	一部再開	全て再開	戻る	戻る
クラブ⑱	未活動	活動中止	一部再開	全て再開	全て再開	戻る	減る
クラブ⑲	未活動	活動中止	一部再開	一部再開	一部再開	戻る	減る
クラブ⑳	未活動	活動中止	一部再開	一部再開	全て再開	戻る	増える
クラブ㉑	安否確認 避難所設置	活動中止	一部再開	全て再開	全て再開	戻る	戻る
クラブ㉒	未活動	活動中止	活動中止	一部再開	全て再開	戻る	増える
クラブ㉓	活動中止 安否確認	安否確認	一部再開	一部再開	一部再開	戻る	戻る

図 1. 災害後の総合型クラブの復旧過程

今思えば、災害後の復旧支援事業に指定管理者として関わったことにより、住民にクラブの活動を広く理解してもらえたことはクラブにとって大きかったと思う。
(クラブ①クラブマネジャーの口述より抜粋)

一過性の支援より、我々のように継続的に支援を続けていることは地域の人に好意的に受け入れられたし関係が構築できたように思う。また、我々も(住民・避難民の)健康管理・体力維持などの事業に関わったことがクラブに大きな財産となった気がする。
(クラブ⑪クラブマネジャーの口述より抜粋)

地域住民や子供の心のケアができたことは何よりも大きい。
(クラブ⑦クラブマネジャーの口述より抜粋)

図 2. クラブマネジャーの災害支援時の総合型クラブの効果についての語り

2. 総合型クラブと地域住民の比較

SC 尺度について、まず下位尺度である信頼、規範とネットワークについての分析を行った(表1参照)。ネットワークの相関がやや低いものの、内的一貫性を示す α 係数はいずれも.08を超えた値を示していたため、項目の平均を基に合成したものを下位尺度得点とし、分析に用いることとした(表1参照)。

まず、地域住民と総合型クラブのメンバー間のSCについて比較を行った。まず従属変数にSC、震災と会員種別を独立変数とした多変量分散分析を行った結果、等質性は $f(18,853514)=.00$ ($p<.001$) 満たしたが、いずれも交互作用が認められなかった。そこで、信頼、ネットワーク、規範について個別に2要因混合モデルの分散分析を行った。それぞれ球面性検定が有意でないことを確認した後($W=1.00$)、信頼については震災前後と会員種別の交互作用は $f(1,247)=.054$, (n.s) となり、会員種別の効果も $f(1,247)=.149$, (n.s) とみとめられなかった。ネットワークについても、交互作用が $f(1,247)=.314$, (n.s) となり、ネットワークの主効果は $f(1,247)=23.463$, ($p<.001$) と差が見られ、会員種別の効果は $f(1,247)=.063$, (n.s) となり認められなかった。最後に規範については、交互作用が $f(1,247)=0.646$, (n.s) となり、規範の主効果は $f(1,247)=36.842$, ($p<.001$) と差が見られ、会員種別の効果は $f(1,247)=.646$, (n.s) となり認められず、グラフからは信頼は震災前後の効果が、ネットワークはSCと会員種別それぞれの効果が、規範もそれぞれの効果があることが見受けられた(表2及び図3~5参照)。

そこで、震災前後の比較について t 検定を用いて行ったところ、地域住民のSCは信頼が $t(128)=-4.77$ $p<.001$, ネットワークが $t(128)=-4.26$ $p<.001$, 規範が $t(128)=-5.21$ $p<.001$ といずれも震災後が高く、クラブメンバーのSCについても信頼が $t(119)=-2.06$ $p<.05$, ネットワークが $t(119)=-3.19$ $p<.01$, 規範が $t(119)=-3.80$ $p<.001$ と同じく震災後の値が高かった。クラブ加入の有無ではネットワークについて地域住民の方が震災前後いずれも $t(247)=2.02$ $p<.05$, $t(247)=1.58$ $p<.05$ と高かった(表3及び4参照)。

次に、地区ごとに震災前後のSCについて比較を行った。TukeyのHSD法(5%水準)にて多重比較を行った結果では、ネットワークについてA地区とC地区に震災前が $p<.05$,

表1. 尺度の検討

下位尺度	M	最大値	最小値	項目間相関	α 係数
信頼	4.03	4.31	3.72	.61	.86
ネットワーク	4.16	4.74	3.42	.45	.81
規範	2.95	3.20	2.77	.85	.98

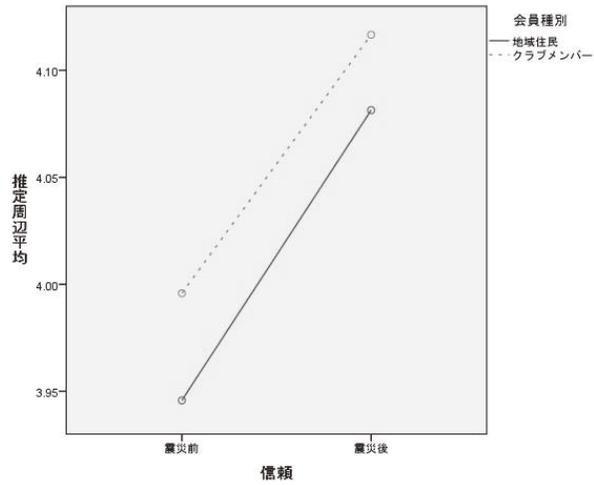


図 3. 信頼の分散分析

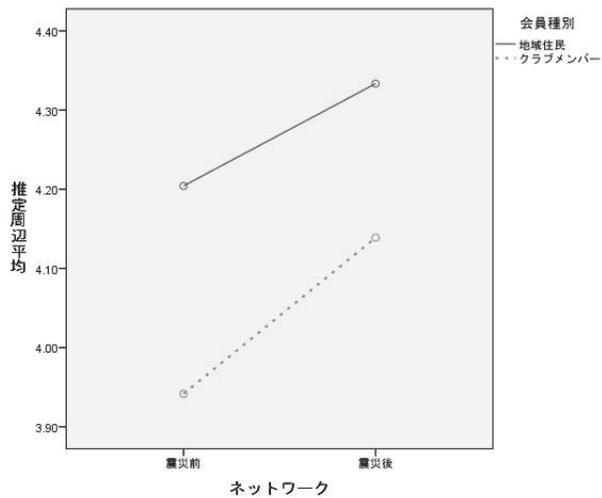


図 4. ネットワークについての分散分析

震災後が $p < .01$ で差が見受けられ、規範について A 地区と B 地区に震災後に $p < .05$ の差が見られた。

次に、地域住民とクラブメンバーとの比較を行った結果、小規模な B クラブで信頼の震災前が $t(81) = -2.3$ $p < .05$ で震災後が $t(81) = -3.16$ $p < .01$ 、規範の震災前が $t(81) = -3.58$ $p < .001$ で震災後が $t(81) = -3.60$ $p < .001$ となり、SC 項目の平均値は 3 尺度全て地域住民よりクラブメンバーの方が高い値を示した（表 5 及び 6 参照）。

大規模災害と地域のスポーツクラブ

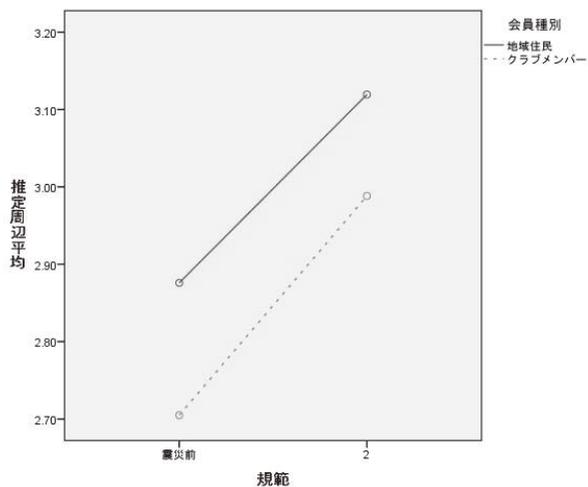


図5. 規範の分散分析

表2. 地域住民とクラブメンバーの比較

	震災前		震災後		主効果		交互作用
	非加入	加入	非加入	加入	震災	会員種別	
信頼	3.95	4.00	4.08	4.12	16.20	.70	.05
	.87	1.01	.88	.86			
ネットワーク	4.20	3.94	4.33	4.24	23.46	3.50	1.02
	.74	1.26	.77	1.15			
規範	2.88	2.71	3.12	2.99	36.84	.54	.21
	1.53	1.74	1.61	1.78			

上段：平均値 下段：標準偏差 主効果：交互作用はf値

表3. 震災のSCへの影響

		対応サンプルの検定							t	df	有意確率 (両側)
		対応サンプルの差				差の95%信頼区間					
		平均値	標準偏差	平均値の標準誤差	下限			上限			
信頼	震災前後 地域住民	-.13566	.32326	.02846	-.19198	-.07934	-4.766	128	.000		
	震災前後 クラブメンバー	-.12083	.64168	.05858	-.23682	-.00485	-2.063	119	.041		
ネットワーク	震災前後 地域住民	-.13021	.34554	.03054	-.19064	-.06977	-4.263	127	.000		
	震災前後 クラブメンバー	-.19722	.67708	.06181	-.31961	-.07483	-3.191	119	.002		
規範	震災前後 地域住民	-.24341	.53090	.04674	-.33590	-.15092	-5.207	128	.000		
	震災前後 クラブメンバー	-.28333	.81770	.07465	-.43114	-.13553	-3.796	119	.000		

表 4. クラブ加入の SC への影響

独立サンプルの検定										
		等分散性のための Levene の検定		2 つの母平均の差の検定						
		F	有意確率	t	df	有意確率 (両側)	平均値の差	差の標準誤差	差の 95% 信頼区間	
									下限	上限
信頼 震災前	等分散が仮定されている	.182	670	-.419	247	.676	-.05010	.11966	-.28578	.18559
	等分散が仮定されていない			-.416	235.637	.677	-.05010	.12030	-.28710	.18691
信頼 震災後	等分散が仮定されている	1.701	.193	-.320	247	.749	-.03527	.11028	-.25249	.18194
	等分散が仮定されていない			-.320	246.246	.749	-.03527	.11021	-.25235	.18181
ネットワーク 震災前	等分散が仮定されている	16.216	.000	2.016	247	.045	.26247	.13018	.00607	.51887
	等分散が仮定されていない			1.981	189.590	.049	.26247	.13250	.00111	.52382
ネットワーク 震災後	等分散が仮定されている	12.832	.000	1.578	247	.116	.19444	.12324	-.04830	.43719
	等分散が仮定されていない			1.556	206.669	.121	.19444	.12493	-.05186	.44075
規範 震災前	等分散が仮定されている	6.212	.013	.826	247	.410	.17097	.20699	-.23673	.57867
	等分散が仮定されていない			.822	237.773	.412	.17097	.20793	-.23866	.58060
規範 震災後	等分散が仮定されている	3.093	.080	.610	247	.542	.13105	.21476	-.29195	.55404
	等分散が仮定されていない			.608	240.248	.544	.13105	.21550	-.29347	.55556

考察

まず、宮城県に限らず、筆者がこれまで携わった総合型クラブは、規模や事業が多様であり、設立母体が体育協会などの既存のスポーツ組織の場合ほど行政との繋がりが強く、必然的に規模も大きく、地域における行政のスポーツ事業を委託されていた。また、活動場所は学校開放や公共スポーツ施設が中心であるが、規模が大きければ施設の管理代行している場合が多い。

県下では、多くの総合型クラブが平成 23 年 9 月までに活動の一部を再開しており、平成 24 年 4 月には概ね全ての活動を再開していた。スポーツ実施者が活動復帰について内陸部と沿岸部で差異は見られたものの 3 ヶ月後と 6 ヶ月後が多かったことを鑑みると (Amano 2012)、総じて被災地でのスポーツへの復帰は 6 ヶ月という時間がひとつの区切りになっていたと考える。また、公共スポーツ施設に活動の場やクラブの事務局であるクラブハウスを設置することが多い総合型クラブは、黒須 (2011) の報告と同様で施設復旧の遅れが活動再

表5. 地区別 統計量
地区別 統計量一覧

地域	会員種別		信頼 震災前	信頼 震災後	ネットワーク 震災前	ネットワーク 震災後	規範 震災前	規範 震災後
A 地区	地域住民	平均値	4.0517	4.1552	4.2759	4.3908	3.5034	3.8069
		度数	29	29	29	29	29	29
		標準偏差	.72389	.73319	.55684	.56392	1.18517	1.19700
	クラブメンバー	平均値	4.0417	4.1333	3.7444	3.8889	1.9833	2.1667
		度数	60	60	60	60	60	60
		標準偏差	.86009	.66934	1.05117	1.02450	1.81193	1.93107
	合計	平均値	4.0449	4.1404	3.9176	4.0524	2.4787	2.7011
		度数	89	89	89	89	89	89
		標準偏差	.91408	.68668	.94985	.92782	1.77805	1.88514
B 地区	地域住民	平均値	3.6100	3.7200	3.9400	4.0400	2.6200	2.9280
		度数	50	50	50	50	50	50
		標準偏差	.67226	.69370	.58589	.61956	1.24491	1.35210
	クラブメンバー	平均値	4.0152	4.2273	4.0808	4.3838	3.5576	3.8788
		度数	33	33	33	33	33	33
		標準偏差	.93110	.75095	1.39700	1.12460	1.03774	.84844
	合計	平均値	3.7711	3.9217	3.9960	4.1767	2.9928	3.3060
		度数	83	83	83	83	83	83
		標準偏差	.80510	.75499	.98566	.86694	1.24878	1.26915
C 地区	地域住民	平均値	4.2200	4.4000	4.4267	4.5933	2.7680	2.9120
		度数	50	50	50	50	50	50
		標準偏差	1.02100	.98974	.89097	.91669	1.85796	1.94712
	クラブメンバー	平均値	3.8704	3.9444	4.2099	4.3951	3.2667	3.7259
		度数	27	27	27	27	27	27
		標準偏差	1.39085	1.28103	1.48251	1.33985	1.59711	1.39576
	合計	平均値	4.0974	4.2403	4.3506	4.5238	2.9429	3.1974
		度数	77	77	77	77	77	77
		標準偏差	1.16709	1.11394	1.12896	1.07935	1.77641	1.80657
合計	地域住民	平均値	3.9457	4.0814	4.2041	4.3333	2.8760	3.1194
		度数	129	129	129	129	129	129
		標準偏差	.87330	.87676	.74222	.77392	1.53015	1.61333
	クラブメンバー	平均値	3.9958	4.1167	3.9417	4.1389	2.7050	2.9883
		度数	120	120	120	120	120	120
		標準偏差	1.01355	.86173	1.26259	1.14706	1.73505	1.77533
	合計	平均値	3.9699	4.0984	4.0776	4.2396	2.7936	3.0562
		度数	249	249	249	249	249	249
		標準偏差	.94191	.86798	1.03273	.97466	1.63104	1.69117

表 6. B 地区におけるクラブ加入の SC への影響

C 地区 独立サンプルの検定

		等分散性のための Levene の検定		2 つの母平均の差の検定						
		F	有意確率	t	df	有意確率 (両側)	平均値の差	差の標準誤差	差の 95% 信頼区間	
									下限	上限
信頼 震災前	等分散が仮定されている	.589	.445	- 2.302	81	.024	-.40515	.17602	-.75537	-.05494
	等分散が仮定されていない			- 2.156	53.659	0.36	-.40515	.18791	-.78194	-.02836
信頼 震災後	等分散が仮定されている	.101	.920	- 3.155	81	.002	-.50727	.16078	-.82718	-.18737
	等分散が仮定されていない			- 3.104	64.777	.003	-.50727	.16344	-.83371	-.18084
ネットワーク 震災前	等分散が仮定されている	10.889	.001	- .630	81	.531	-.13970	.22186	-.58113	.30173
	等分散が仮定されていない			- .544	39.513	.590	-.13970	.26689	-.65910	.37970
ネットワーク 震災後	等分散が仮定されている	5.781	.018	- 1.786	81	.078	-.34273	.19192	-.72460	.03914
	等分散が仮定されていない			- 1.598	44.936	.117	-.34273	.21453	-.77483	.08937
規範 震災前	等分散が仮定されている	.888	.349	- 3.581	81	.001	-.93758	.26184	- 1.45856	-.41659
	等分散が仮定されていない			- 3.717	76.555	.000	-.93758	.25225	- 1.43991	-.43524
規範 震災後	等分散が仮定されている	2.972	.089	- 3.595	81	.001	-.95079	.26446	- 1.47697	-.42460
	等分散が仮定されていない			- 3.935	80.845	.000	-.95079	.24161	- 1.43154	-.47004

開への障害となっていた。

恒常的な課題として、公共スポーツ施設の多くは絶えず利用率が高く、且つ団体利用が占める割合が多い。そして、文部科学省が望んでいるスポーツ人口の拡大に重要と考えられる普段から運動をあまり行わない層の人々が運動をはじめの余地は、参加する事業も含め極めて少ない。翻って、日常よりも増して限られた災害復旧時の施設開放において、一般愛好家の運動欲求とクラブ事業再開との両立が施設を管理する総合型クラブには重責となっていたことは、今後の公共スポーツ施設の利用を再考するうえでも重要な視点を与えてくれる。

今回のような大規模災害が発生すれば運営するスタッフは、施設管理である安全点検などの管理業務を超え、避難所や物資中継、遺体安置などを支援する業務に従事し当該地域における公的な役割を果たしていたといえる。一方で支援や復興事業に携わった総合型クラブは多かったが、事業が再開していないなかでスタッフが個人として携わっていた事例も少ない。

これらからは総合型クラブが、日常的にも地域スポーツ振興を支援することで一定の公的

な責務を果たしており、また災害を契機に復興や支援への事業を行うことによって地域コミュニティの核として期待された役割をより果たしたことが見受けられ、第一の仮説は支持されたと筆者は考える。

次に、災害が地域住民とクラブのメンバー双方のSCに影響を与えたことは、災害が社会における協力関係の紐帯や回復力を露呈させると言われていること（前掲 Oliver-Smith et al, 1999, p 14）を裏付けている。一方、クラブへの加入有無についての比較では、SC項目で信頼以外は地域住民の項目平均値が高かった。二つの要因のうち、大規模災害の要因は一般的に考えても集団への加入と較べて大きな影響を及ぼすことは容易に想像できるが、一方で期待された総合型クラブの活動が、メンバーや地域に与える効用については、今回の分析では明確にはならなかった為、第二の仮説は棄却されたと考える。事例としてC地区のSC尺度は地域住民よりもクラブメンバーの方が高く、また二つの尺度においては統計的な有意差も見受けられた。この結果について単純に事例として解釈するのではなく、今回の項目に加えなかった対象クラブメンバーの加入歴や地域住民の居住歴、またクラブへの新たな調査を通じて今後も研究を継続していくこととする。

地域社会の結びつきに総合型クラブが貢献をしていることを図るためSC尺度を用い分析を進めたが、尺度の改良や変更、調査対象者の選定と収集方法の改良を試みることで、一方で個人のSC涵養への効果を抽出するために縦断的な調査を行うことなどにより総合型クラブの活動効果とソーシャル・キャピタルの因果関係の解明することについても今後の研究課題としたい。

付言

本研究は、文部科学省平成23年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業S1103002「地域災害脆弱性の克服と持続基盤形成を促す大学・地域協働拠点の構築（東北学院大学 研究代表者：宮城豊彦）」より補助を一部受けた。

引用参考文献

- 天野和彦（2012）大規模災害と公共スポーツ施設—公共スポーツ施設の危機管理について—，
体育経営管理論集4(1)：1-17.
- Amano Kazuhiko（2012）Crisis management for public sports facilities—The great East JAPAN
earthquake example—. European Association for Sport Management 2012 Abstract
book：165.
- Amano Kazuhiko（2013）Large Scale Disaster and Community Sports Club—A Case Study from

- The Great East JAPAN Earthquake— European Association for Sport Management 2013 Abstract book : 38.
- 海老原修 (2000) 地域スポーツのこれまでとこれから —コミュニティ型スポーツの限界とアソシエーション型スポーツの可能性—. 体育の科学 vol 50 : 180-184.
- 古市勝也・信田よしの・坂井 充・金 池 好 (2001) 日本における「総合型地域スポーツクラブ」の設立構造の要因と設立の手順・手法に関する研究. 九州女子大学紀要人文社会科学編 37(3) : 1-23.
- Hanifan, L, J. (1916) “The Rural School community Center”. Annals of the American Academy of political and Social Science, 67 : 130-138.
- Ichiro, Kawachi. S, V, Subramanian. and Daniel, Kim (2008) Social capital and health : a decade of progress and beyond. In Social Capital and Health, I,K et al (Eds.) Springer Science, pp 1-28 (藤澤由和 高尾総司 濱野強監訳 2008「ソーシャル・キャピタルと健康」日本評論社).
- 厚生労働省 (2011) 「健康日本 21」最終評価,
<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000001r5gc-att/2r9852000001r5np.pdf>, (参照 2014 年 5 月 7 日).
- 黒須 充 (2011) 総合型地域スポーツクラブにおける被災地支援活動, 福島大学研究年報別冊 : 179-185.
- 文部科学省 (2013a) 平成 25 年度体力スポーツに関する世論調査, http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jisshi/1294610.htm, (参照 2014 年 5 月 7 日).
- 文部科学省 (2013b) スポーツ基本法, http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/kihonhou/, (参照 2014 年 5 月 7 日).
- 文部科学省 (2013c) 平成 25 年度総合型地域スポーツクラブ育成状況調査 (平成 25 年 6-7 月調査), http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/club/1339568.htm, (参照 2014 年 5 月 7 日).
- 文部科学省 (2013d) 平成 25 年度総合型地域スポーツクラブに関する実態調査結果概要 (平成 25 年 6-7 月調査),
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/sports/detail/_icsFile/afieldfile/2014/01/20/1234682_10.pdf, (参照 2014 年 5 月 7 日).
- 中西純司・行實鉄平・村田真一 (2011) 「新しい公共」を担う総合型地域スポーツクラブの課題と展望. 福岡教育大学紀要第 5 分冊芸術・保健体育・家政科編, 60 : 77-92.
- 内閣府 (2012) 各行政分野における「新しい公共」の担い手の活動状況について (平成 24 年 11 月 30 日), <http://www5.cao.go.jp/npc/pdf/kakubunya.pdf>, (参照 2014 年 5 月 7 日).
- 鬼丸正明 (2007) 「ソーシャル・キャピタル」: スポーツ論への可能性. 一橋大学スポーツ研究 26 : 33-40.
- Putnam. Robert D (1995) Bowling Alone : America’s Declining Social Capital. Journal of Democracy 6.1 : 65-78.
- Putnam. Robert D (2000) Bowling alone—The collapse and revival of American community—, SIMON&SCHUSTER PAPERBACKS (柴内康文訳 2006「孤独なボウリング—米国コミュニティの崩壊と再生—」柏書房).
- 清水紀宏 (2005) 総合型地域スポーツクラブの成果と課題—特に、クラブマネジメントとクラブライフについて—. 平成 14-16 年度科学研究費補助金 (基盤研究 C(2)) 研究成果報告書, pp 39-78.
- 総務省 (2913) 広域行政・市町村合併, <http://www.soumu.go.jp/kouiki/kouiki.html>, (参照 2014 年 5 月 7 日).
- Susanna, M, Hoffman. and Anthony, Oliver-Smith (2002) Catastrophe & Culture. Anthony, Oliver-Smith (Eds.) School of American Research Press, pp 3-22 (若林佳史訳 2006「災害の人類学—カストロフィと文化—」明石書店 pp 7-28).
- 堤 理仁・赤松宏和・中川義英 (2002) 地域スポーツの地域活性化効果に関する研究—総合型

- 地域スポーツクラブを対象として一. 第37回日本都市計画学会学術研究論文集：283-288.
- 八代 勉（2001） 21世紀型生涯スポーツの豊かな発展を目指して—総合型地域スポーツクラブへの提言—. 日本体育・スポーツ経営学会，総合型地域スポーツクラブと我が国のスポーツシステム， pp 1-11.
- 柳沢和雄（2002） 総合型地域スポーツクラブの実像と虚像. 日本体育・スポーツ経営学会編 テキスト総合型地域スポーツクラブ，大修館書店， p 26.